

まちの情景と建築

田中 修一

日本編

地域風土

清流で心を洗う 岐阜県郡上八幡

岐阜県越前街道の中部に位地する水と踊りの町。2004年に町村合併で郡上市になった。でも人口は16千人に過ぎない。戦国末期1559年に遠藤盛数が八幡城を築城して国ができた。東西から保川・吉田川がこの町で合流して下流に通じる。江戸期を通じて伝統がはぐくまれてきた。1月の郡上本染めの寒ざらし(鯉のぼりの糊落し)、7月中旬～9月上旬に延々と続く郡



▲ 水船



▲ 吉田川の清流(市内で保川と合流し、長良川として鶯飼の地域へ)

上踊りは400年の伝統を持つ日本三大盆踊りに数えられている(他は、秋田県羽後町:西馬音内にしもない盆踊り8/16～18、徳島市:阿波踊り8/12～15、このほかに山形の花笠音頭8/上～下旬を加えることも)。また環境省の名水百選:連歌師宗祇にちなんだ「宗祇水」の湧水、水の郷百選:水船(飲料>食糧洗い>食器洗いに水を順送り)など、自然と共に生きる知恵と伝統文化を市民がしっかり守り育てている。

早春の息吹 静岡県伊豆 河津桜

静岡県伊豆半島南部東岸にある人口8千人の河津町は、江戸期はおろか昭和30年まではこれといった特徴を持たない町だった。中央の峠を越えた西側ではナマコ壁で有名な松崎町と接している。町名の由来は、仇討で有名な曾我兄弟の父、河津三郎祐泰の居館がここにあったことから来る(強力無双で相撲の河津掛けにその名が残る)。河津川とそこに連なる河津七滝(ななだる)と温泉が観光名所ではあったが、1955年に町の飯田勝見氏がこの桜を発見。以後町を挙げて増殖したことで脚光を浴びることになる。



品種は早咲きのオオシマザクラ系とヒカンザクラ系の交配らしい。1974年にカワヅザクラと命名し観光の目玉となった。2月初旬～3月初旬が見ごろで、他所に先駆けて春の息吹を体感しようと観光客であふれる。桜の濃いピンクと菜の花の黄色が川の兩岸を埋め尽くすさまは、風の冷たさを忘れさせてくれる。とはいっても多少は寒い。そこで町のサービスで、沿道の途中に足湯なども用意してくれている。これが結構人気で、老いも若きも和気あいあいと集う姿は観光地としての息の長さを感じさせる。